

○ 東北地方の火山活動

管内月間火山概況（令和6年11月）

仙台管区気象台
地域火山監視・警報センター

噴火警報及び噴火予報の発表状況（11月30日現在）

警報・予報	噴火警戒レベル 及びキーワード	該当火山
火口周辺警報	レベル2（火口周辺規制）	岩手山
噴火予報	レベル1（活火山であることに留意）	岩木山、八甲田山、十和田、秋田焼山、秋田駒ヶ岳 鳥海山、栗駒山、蔵王山、吾妻山、安達太良山、磐梯山
	活火山であることに留意	恐山、八幡平、鳴子、肘折、沼沢、燧ヶ岳

各火山の活動状況及び予報警報事項（11月1日～30日）

主な火山の活動及び予報警報事項の状況は以下のとおりで、予報警報事項に変更はありません。

岩木山〔噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）〕

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

八甲田山〔噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）〕

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

十和田〔噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）〕

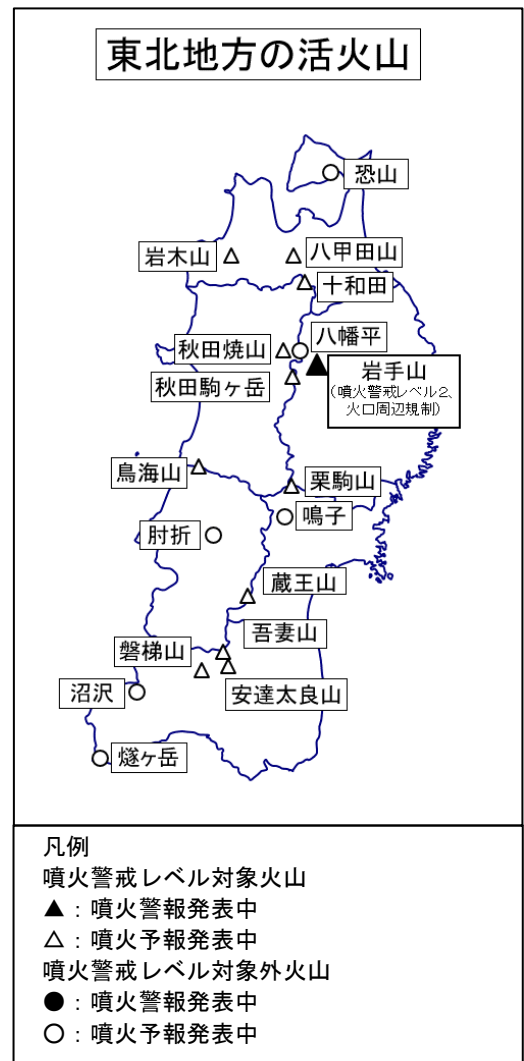
今期間、火山性地震が一時的に増加するなど地震活動がやや活発な状態で経過しました。またGNSS連続観測では一部の基線でわずかな伸びが引き続き認められています。その他の火山活動に特段の変化はなく、噴火の兆候は認められません。

秋田焼山〔噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）〕

GNSS連続観測では2020年中頃から秋田焼山を挟む基線でわずかな伸びの変化が継続中ですが、火山活動は静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

岩手山〔火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）〕

岩手山周辺の傾斜計やひずみ計、GNSS連続観測では、2024年2月頃から山体の深いところの膨張を示す地殻変動が観測されています。JAXAの衛星「だいち2号」の観測結果を用いた国土地理院によるSAR干渉解析結果では、大地獄谷周辺及び岩手山西部周辺において約1年の間に衛星に近づく変動が見られます。大地獄谷周辺の変動は、大地獄谷付近のごく浅いところの膨張を示していると考えられます。一方、最近の約1か月ではノイズレベルを超える変動は見られません。



山頂付近では今期間、火山性地震の発生頻度がやや高まっています。また、黒倉山付近で発生している微小な火山性地震は、増減を繰り返しながら引き続き観測されています。

引き続き、西岩手山（大地獄谷・黒倉山から姥倉山）の想定火口から概ね2kmの範囲に影響を及ぼす噴火が発生する可能性があります。

西岩手山の想定火口から概ね2kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。

また、噴火時には火口の風下側では火山灰や小さな噴石が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意してください。

秋田駒ヶ岳〔噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）〕

10日に山体の北を震源とする火山性地震が一時的に増加しました。

その他の火山活動に特段の変化はありませんでした。

山頂付近では、2017年以降、火山性地震の発生頻度がやや高い状態で推移し、女^め岳^{だけ}付近では熱活動が継続していますが、火山活動に特段の変化はなく、噴火の兆候は認められません。

鳥海山〔噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）〕

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

栗駒山〔噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）〕

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

蔵王山〔噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）〕

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

吾妻山〔噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）〕

今期間、火山性地震は少ない状態で経過しており、また、大穴火口周辺では緩やかな地盤の収縮を示唆する変化がみられていることから、山体浅部の熱水活動は低調な状態にあるとみられます。一方で、火山ガスや噴気・地熱の活動は継続していますので、今後の火山活動の推移には留意が必要です。また、入山する際には火山ガスに注意してください。

安達太良山〔噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）〕

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

磐梯山〔噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）〕

21日に火山性微動が観測されましたが、その他の観測データに特段の変化はありませんでした。

GNSS連続観測で認められていた2022年後半からの山体膨張を示すわずかな変化は2023年10月頃から停滞していますが、火山性地震は2022年10月以前に比べて多い状態で経過していますので、今後の火山活動の推移に留意してください。

上記以外の火山の活動状況に特段の変化はなく、予報警報事項に変更はありません。

※噴火警戒レベルは、地域防災計画等でその活用が定められている火山で運用しています。

この管内月間火山概況は気象庁ホームページで閲覧することができます。

https://www.data.jma.go.jp/vois/data/report/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php

資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/kazan/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土交通省東北地方整備局、国土地理院、北海道大学、弘前大学、東北大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所、国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構（JAXA）、青森県及び公益財団法人地震予知総合研究振興会のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の『数値地図25000（行政界・海岸線）』を使用しています。